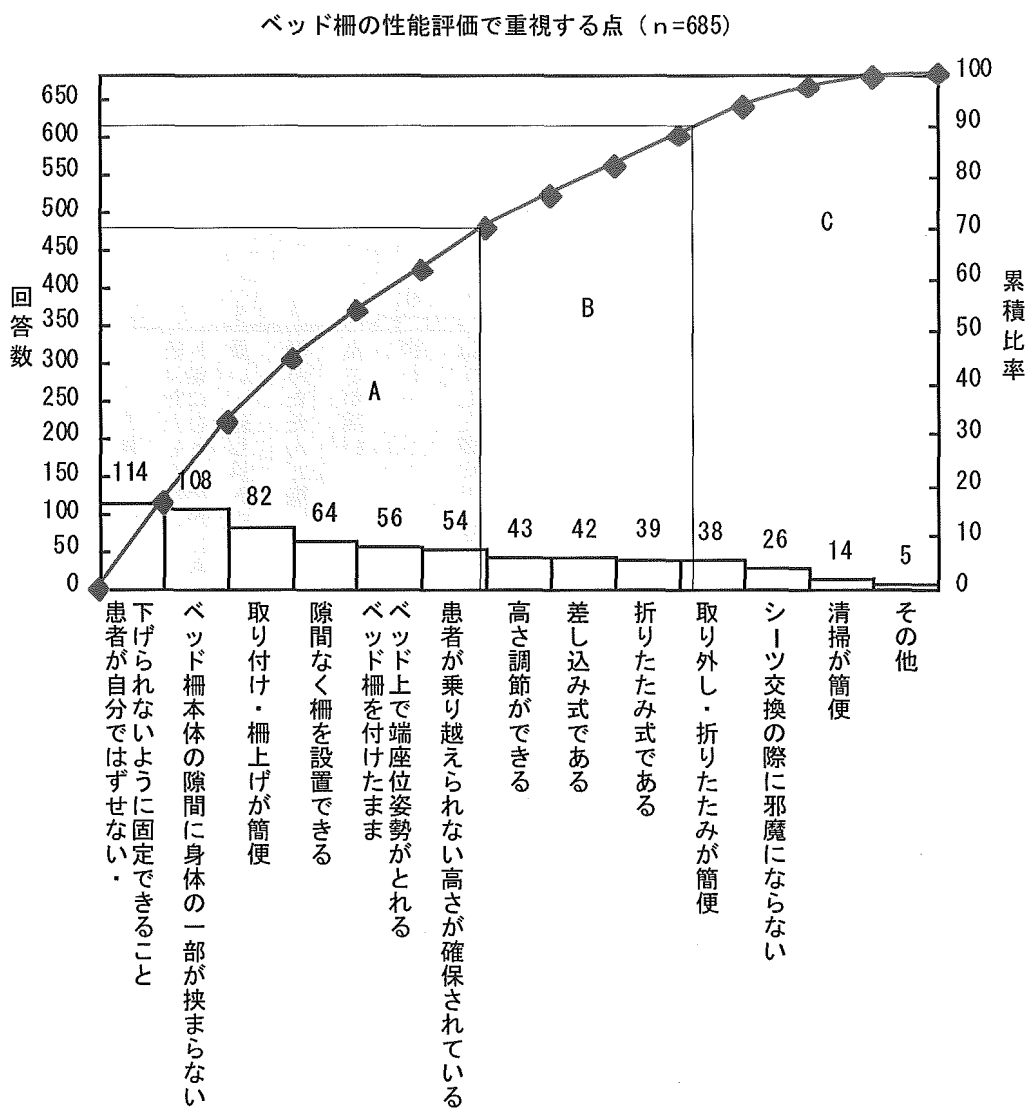
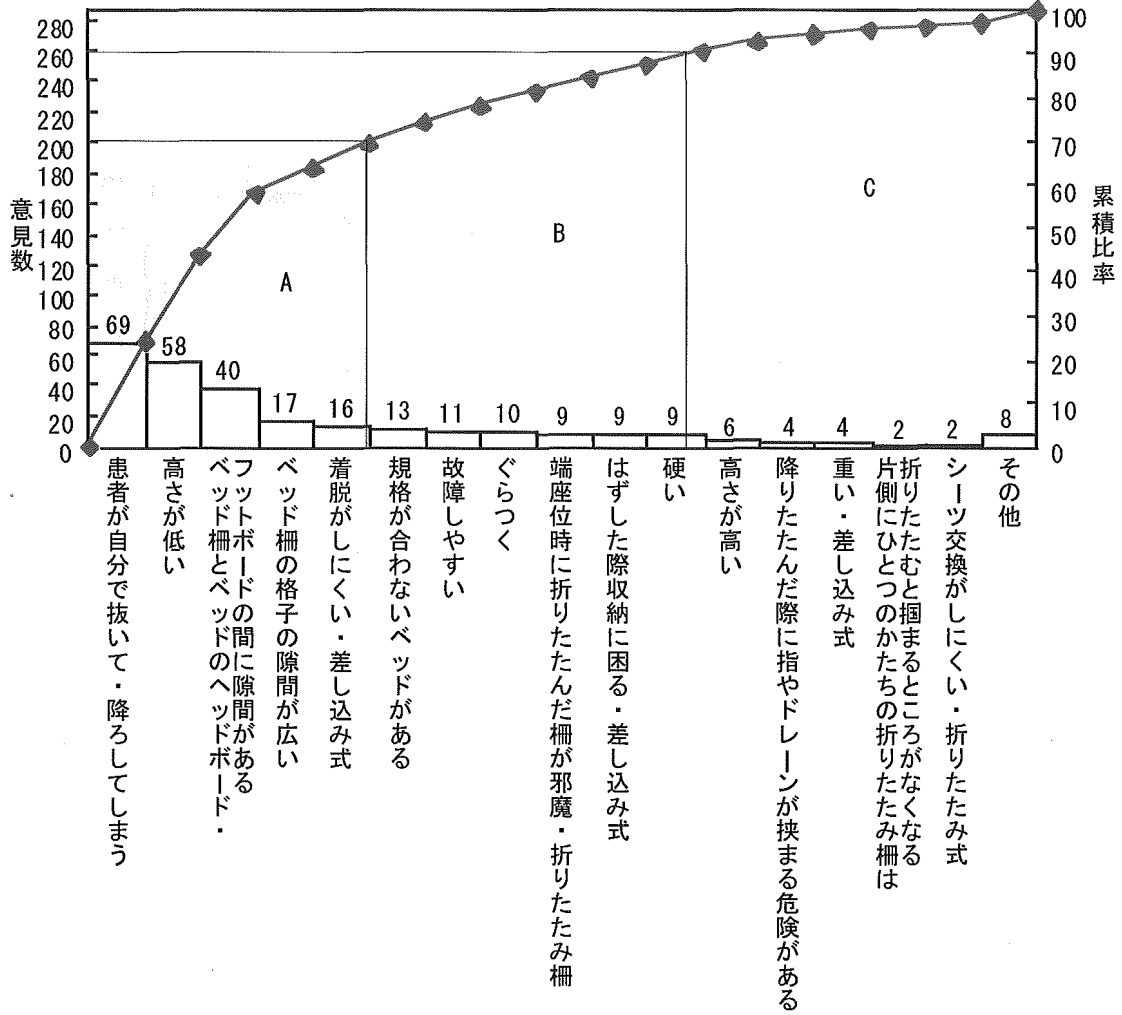


資料 5-1 ベッド柵についてのアンケート集計結果



ベッド柵に対する不満・改善要求意見 (n=287)



資料 5-2 ベッド柵の評価軸と求められる性能

ベッド柵	
評価軸	求められる性能
誤操作を避けるための機能	<input type="checkbox"/> 患者が自分でベッド柵を抜くこと/降ろすことができないよう固定できる
安全性への配慮	<input type="checkbox"/> 厚みのあるマットレス使用時に、適切な高さが確保できる <input type="checkbox"/> 隙間なく設置することができる <input type="checkbox"/> ベッド柵の格子の隙間から身体の一部が出ないようにできる <input type="checkbox"/> ベッド柵をつけたままで端座位の姿勢がとれる
設置・収納のしやすさ	<input type="checkbox"/> 着脱が容易にできる <input type="checkbox"/> 強度や機能を損ねることなく、軽量化がはかられている

## 資料 5-3 ベッド柵の性能を評価するにあたって重視する点・選択理由・一覧表

### 1. 折りたたみ式であること

- ・ 患者が動けるので、自分で操作が簡単なこと。
- ・ 操作が簡単。
- ・ ベッドサイドの仕事がしやすい。
- ・ 処置等で、自在に上げ下げができると良い。
- ・ 処置を行う時、折りたたむ必要がある。
- ・ 処置時片面がフリーになり、柵がベッドについているため邪魔にならない。
- ・ 使用時、未使用時、柵の移動がなから楽である。
- ・ 簡便、紛失しない。
- ・ 体動・移動させやすい。
- ・ 差し込み式より処置が容易。
- ・ ベッドサイドでトイレを使用している方などの起き上がりに角度を変えられるので安全。
- ・ 他の場所においたりしなくてよい。
- ・ 操作が簡単。
- ・ カク納できる。
- ・ 操作が簡単。
- ・ 操作が簡単。
- ・ 場所をとらずに使用できる。
- ・ 必要な時に簡単に使用できる。
- ・ 転落防止というよりは、術後のリハビリ、安全確保が目的。
- ・ 差し込み式のようにわざわざ外したりする手間がなく便利。
- ・ 車椅子利用する Pt で麻痺のある自立した人に便利。
- ・ 患者が自分で外せず、固定できてること。
- ・ 使いやすい。
- ・ 操作が簡単。
- ・ 利用者本人も取り付け・はずしをするため。
- ・ 全 Pt に必ずしも必要なものでないから。
- ・ 体の一部を挟んでしまうことはあり、生命の危険を感じる時があるから。
- ・ 処置の際、便利のように、すぐ操作できるもの。
- ・ 収納を考えると折りたたみ式が便利である。
- ・ ベッドに端座位から臥位になる際など、腰の位置が合うので便利。また移動や立位になるのに Pt がやりやすい。つかまり立ちしやすかった。

### 2. 差し込み式である

- ・ 使いやすい。
- ・ いらない時には取り外せるほうが良い。
- ・ 使用しやすい。
- ・ 取り付け、外しが簡単である。
- ・ 必要に応じ柵の数、種類を変更できる。
- ・ 取り外しが簡単に出来、付けたい位置に設置できる。
- ・ 取り付け、取り外しが簡便。
- ・ ナースサイドで調節ができる。
- ・ 取り外しが簡単。
- ・ 取り扱い簡便。
- ・ 取り外しが簡単で、比較的しっかりしている。
- ・ 起立する時、取り外しが簡単にできる。
- ・ 容易にはずれにくい。
- ・ 認知症の方など、誤って折りたたむとはさまれたり、転落転倒の原因となるため差し込みのほうがよい。
- ・ 差し込み式を4点つけることによって転落防止。
- ・ 簡単に操作できる。
- ・ つけ方が簡単。
- ・ 移動などあった時にすぐとりはずせた方がよい。
- ・ 取り外しが簡単。
- ・ 簡単に差し込める。
- ・ 折りたたみ式で、Pt が自分で操作するということがあったから差し込み式がいい。
- ・ 取り外しが簡単で、ある程度位置の調整ができる。
- ・ 患者の ADL によって変更ができる。
- ・ 着脱させやすい。
- ・ 差し込みが容易である。
- ・ 4カ所の柵で必要な部分のみとり外せる。
- ・ 固定が確実になる。外しにくい。
- ・ 患者様の様態に合わせて使用する。こまめに上げ下げすることで事故防止ができる。
- ・ 簡便であり、すぐ利用できること。
- ・ シーツ交換時は外せるので。

- ・ はずし可能で便利。
3. 取り付け/柵上げが簡便
- ・ 必要な時に簡単取り付けられる。
  - ・ スムーズにできる。
  - ・ 排泄介助等、取り付け/柵上げ回数が多いので。
  - ・ 取り付け、柵上げが簡単でない、利用率が上がらない。
  - ・ 簡単に、ベッド柵の上げ下げがしやすいが、Pt も簡単にしやすいので、危険。
  - ・ とにかく簡便なこと、しかし患者様にとっても簡便で危険。
  - ・ 処置、移動などで取り外す機会が多いため、簡便な方がよい。
  - ・ 簡単に使える。
  - ・ 急ぐ場合は取り付け、取り外しがスムーズなのが良い。
  - ・ 患者によって必要度に合わせて設定できるから。
  - ・ 利便性・効率性。
  - ・ 取り付け、外しが簡便。
  - ・ 難しいのは使いづらい。
  - ・ 処置をする時、簡単に外せるが、不穏な Pt 様もあり、自分で外したりもある。この取り付け柵しかない、調整して工夫して使用している現状である。
  - ・ 処置などの時、邪魔になるので取り付けが簡単であることは良い。
  - ・ 看護業務の負担の軽減。
  - ・ 処置の際、便利。
  - ・ 差し込み式でネジで簡単に取り付けができる。
  - ・ 処置等でやりやすくするため。
  - ・ 簡単に使えなければ、看護師全員が使用できない。様々な患者に対応したい。
  - ・ 移動後に取りはずしやすい。
  - ・ 必要な時に簡単に設置できると便利である。
  - ・ 操作が簡単に柵あげできることが大切。
  - ・ 取り付け等が簡単でないといざという時に不便となる。
  - ・ 取り付けが簡単でないとすべての Pt につけることは難しいから。
  - ・ 手間がかかるとスタッフの負担大きくなる。
  - ・ 利用者本人も取り付け・はずしをするため。
  - ・ 取り付けがすぐに行なえることは、すぐに使用できる。
  - ・ ドライバーとか必要だと大変。
  - ・ 柵の取付は毎日している。清掃もするので取付が楽なのが良い。
  - ・ 短時間でできる。
  - ・ 使い方が簡単である。
  - ・ 夜間等、急に必要な時にすぐできる方がいいから。
  - ・ はずしたり、付けたりすることがある。
  - ・ 処置時に、外さないと行えない事があるため。
  - ・ 扱いが簡単な方が使いやすい。
  - ・ スタッフの負担。
  - ・ 移動が多い場合、差し込み式で置く場所がないこと。
  - ・ 柵の上げ下げが握り1つで行える。
  - ・ 操作が簡単であること。
  - ・ 簡単に出来なければ使用率が下がり、転落のリスクが高くなる。
  - ・ 介助バーとの交換が可能。
  - ・ 準備しやすい。
  - ・ 日々入退院は激しい中簡便が必要。
  - ・ 取り付けが簡単。
  - ・ 業務が容易だから。
  - ・ 取り外しが簡単で、比較的しっかりしている。
  - ・ とりはずしができて、4ヶ所に設置を可能であり、患者の状況によってつけられる。
  - ・ 介助バーをつけたりする際のとおりつけがかんたんの方がよい。
  - ・ 使いやすい。
  - ・ 誰もが付けられる。
  - ・ 誰でも使用が可能。
  - ・ 取り付けも簡単な方がよい。
  - ・ 取り外して置き場が。
  - ・ 着脱させやすい。
  - ・ 処置の時に、柵を取り外したり、付けたりするため。
  - ・ 患者の状態により変換しているため。
  - ・ 簡便に転倒転落防止ができる。
  - ・ 仕事時間がかかることあり。
  - ・ 患者が自分で外せず、固定できてること。
  - ・ 効率的でないと、ナース達はついつい使わなくなる。
  - ・ 簡便であり、すぐ利用できること。

- ・ ナース処置にて速やかに行いたい。
4. 取り外し/折りたたみが簡便
- ・ 誰もがあつかいやすい。
  - ・ その患者様にあった方向ですぐ取り外しができる方が良い。
  - ・ 簡単に設置できる。
  - ・ “業務が容易だから。
  - ・ “他の柵にかえられる。
  - ・ 折りたたむため患者の身体の負担がない。
  - ・ 利便性。
  - ・ かんたんで使いやすい。
  - ・ 必要に応じて折りたたみができ、ADL の具合等により、ベッド柵や介助バーの選択ができるように、取り外しできる方が良い。
  - ・ 必要な患者に付け替えが容易にできるようにするため。
  - ・ ベッドサイドの仕事がしやすい。
  - ・ 簡単に、ベッド柵の上げ下げがしやすいが、Pt も簡単にしやすいので、危険。
  - ・ 急ぐ場合は取り付け、取り外しがスムーズなのが良い。
  - ・ すぐに取れるので良い。
  - ・ 取り付け、外しが簡単。
  - ・ 患者が端坐位の際、下肢を傷つけにくい。
  - ・ ベットの足側に収納できる。
  - ・ 簡単に操作できる。
  - ・ 操作が簡単。
  - ・ 使い方が簡単である。
  - ・ 患者の安全を守るため。
  - ・ スタッフの負担。
  - ・ 患者さんにとって安全であること。
  - ・ ベッド柵必要・不必要患者により対応が容易。
  - ・ 簡単に出来なければ使用率が下がり、転落のリスクが高くなる。
  - ・ 準備しやすい。
  - ・ 利用者本人も取り付け・はずしをするため。
  - ・ にぎるだけでたおすことができる。
  - ・ 回復リハビリテーション病棟だと、柵の取り外しが必要である。
  - ・ 取り外し、折りたたみ、しやすいことでケアがしやすい。
5. 患者が自分でははずせない/下げられないように固定
- ・ 事故防止のため。
  - ・ 現在使用しているものは、固定をしないと取り外しが容易であるため。
  - ・ ベッドからの転落予防のため、特に認知症患者の安全確保のため必要。
  - ・ 患者自身が上げ下げすることにより転倒がおこるため。
  - ・ 事故防止。
  - ・ 患者が自分で動かし、転落する危険を防ぐため。
  - ・ 自分で外せた方がいい時もあるが、できれば下げられないよう固定もできると良い。両方できると良い。
  - ・ 自分でベッド柵を外す人には便利。
  - ・ 外してしまう場合、ひもでくる。
  - ・ 患者のレベルによっては、外せない/下げられないようにし、安全を確保する。
  - ・ 自分で外す人がいるため。
  - ・ 転落防止。
  - ・ 自分で勝手に外す人には必要。
  - ・ Pt の安全のため。
  - ・ 自分で外して転落するケースが多い。
  - ・ 転落防止。
  - ・ Pt が自分で外して動いてしまわれること多々あるから。
  - ・ 転落防止。
  - ・ 安全性。
  - ・ 危険防止。
  - ・ 不穏患者が自分で外して転落する。
  - ・ 安全確保のため。
  - ・ 自分で外し転倒する人もいるため。
  - ・ 安全確保のため。
  - ・ 患者が自分でベッド柵を外して、転落の原因になることを防止するため。
  - ・ 認知症の Pt は自分で柵を外してベッド下へ降りようとして転倒される。
  - ・ 患者がはずしてベッド転落したことがあった。
  - ・ 転倒・転落を防ぐのに現在ガーゼや紐などで固定しているので。
  - ・ 転倒・転落予防のため。
  - ・ Pt の安全。
  - ・ 患者によって調節しやすい。

- ・ ベッド柵を使用する目的は転落を避けるためであり、このことが最低条件である。
- ・ 認知症の方の転落防止のため、自分で取り外して降りることを予防。
- ・ 危険防止。
- ・ 柵の間にはさまれないこと。一人で外せないことが重要だと思います。
- ・ 不穏な患者さんに使用しても、OKなように!!
- ・ 患者自身がはずす事で転落事故が起こる。
- ・ 患者がさくをはずすことが多々ある。
- ・ そうでないとベット柵の意味がないから。
- ・ 転倒予防に。認知症のある人等は折りたたみ・差し込みなど外してしまう事がある。
- ・ 自分で外されること多し。
- ・ 転倒転落防止のため。
- ・ 安全性。
- ・ 縄でベットと共にしばって固定するが、見た目がよくないので固定できる柵があるとよい。
- ・ 対象によるが、自分で下げておいてしまい、転倒するケースもあり、下げられない設定ができるとよい。
- ・ 危険回避の為。
- ・ 認知症のPtに必要。
- ・ 認知症の患者は、よく柵を下げようとして、ひもなどで固定することがある。
- ・ 転落の危険あるPtにはそのようにできる仕組みがあればよい。
- ・ 固定する、固定しないが選べると良い。
- ・ 危険防止に対応できる。
- ・ 現状認識のできない患者には使えない。
- ・ 現在外せない様にジョイントしたりするケースがあるから。
- ・ 患者が自分で外せない or 下げられないように固定できる。
- ・ 患者様の安全第一。
- ・ 自分で抜いてしまうと危険なため。
- ・ 差し込みタイプのため、持ち上げると簡単に外れてしまうため。
- ・ 安全のため。
- ・ 自分で外してしまう患者様も多く、そういう人が危険な事が多い。
- ・ あまりに上げ下げが簡単だと、患者が自分で操作する事が出来る。
- ・ 事故防止のためにも自分で操作できないもの。
- ・ ねじ固定により安全。
- ・ 患者が自分で外し、転倒するケースが多い。
- ・ 患者が自分で外してしまうことがある。
- ・ 患者が自分で外してしまうケースがあるから。
- ・ 安全が確保出来る。
- ・ 安全性。
- ・ 柵を外してしまう方がいて危険だった。
- ・ 不穏の患者が多く、自分で簡単に取り外している。
- ・ ロック式で患者が自分で外せる時と、外せない時があると良い。
- ・ 差し込み式で患者が自分で外し、そこからベッド転落したことがある。
- ・ 認知症などの患者が自分で柵を外さないようにするため。
- ・ 不穏状態、認知症患者でナースコールせずに移動して転倒するケースが多い。
- ・ 柵を外して転倒・転落する可能性がある。
- ・ 自分でベッド柵をとってしまうPtがいるため、転落防止として。
- ・ 安全のため。
- ・ 取られると危険。
- ・ 事故防止。
- ・ 現状ではできないが、かつてに外してしまうPtがいる。
- ・ A8病棟では、見守りの排泄者が多い。しかし患者がとりはずせたり、すき間から出し Bed に障り転倒するケースが多いため。
- ・ 自分でとっておちることもあるので…。
- ・ 安全のため。
- ・ 事故防止になる。
- ・ 危険行動の回避。
- ・ 転落防止。不穏の状態でも自分で下げられたことがある。
- ・ Ptがベッド柵を外して、ベッドから立ったり、落ちることがあるから。
- ・ 患者が自分で外せず、固定できてること。
- ・ 必要時、固定できる様にするため。
- ・ 転倒につながる。
- ・ 転倒、転落の危険を防ぐため。
- ・ 簡単に、ベッド柵の上げ下げがしやすいが、Ptも簡単にしやすいので、危険。
- ・ 認知症の患者に使用する際、固定できると良い。
- ・ 自分で取って転倒してしまう人がいるため。
- ・ 患者のADLによって変更ができる。
- ・ 認知症等の患者には必要。

- ・ 徘徊する事例には必要。
- ・ 患者が柵をもったまま歩行していたりする（さし込みのものは×）。
- ・ 床上にいてしまいましたが動いてしまう Pt に便利。
- ・ 自分で下げて動き、事故につながる事が多い為。
- ・ 安全のため。
- ・ 使い方が簡単である。
- ・ 柵がないと危険な Pt が多いため。
- ・ 転落防止（不穏患者さんの）
- ・ Pt の安全のため。
- ・ 患者が柵を外し、一人で歩き事故を起こす事があるため。

#### 6. 隙間なく柵を設置できる

- ・ 隙間から抜け出してしまうことがある。
- ・ 身体の一部が柵と柵の間に入らないようにできる。安全を確保できる。
- ・ 転落防止。
- ・ ベッド柵本体の隙間があると危険。
- ・ 隙間があると危険。
- ・ 隙間からすべり落ちる人がいるため。
- ・ 患者の ADL によって変更ができる。
- ・ 新しく設置された柵は安定感もあり使用しやすい。
- ・ 間から体の一部が出て、事故にならない。
- ・ 患者の安全のため。
- ・ 中途半端なスペースは危ないので。
- ・ 4点柵により転倒予防。
- ・ すきまから Pt の頭がはいつてしまう危険がある。そこからベッド下におりてしまう。
- ・ ベッド柵の間より足を出したりしてしまう。
- ・ 4点柵にすることで隙間なく使用できる。
- ・ 上下肢がすき間に入り、骨折など、身体損傷の事故防止ができる。
- ・ 自分で動いてしまうことによる事故を防ぐため。
- ・ 事故防止のため（隙間などにより、ベッド柵に身体が挟まることは重大な事故を招きやすい）。
- ・ 柵の隙間から落ちたり、はさまったりすると危険だから。
- ・ 隙間から転落する事故を防ぐため。
- ・ 患者が自分で動かし、転落する危険を防ぐため。
- ・ 隙間から体がずれ落ちないように（転落、挟んで骨折防止）。
- ・ 転落防止。
- ・ Pt の安全のため。
- ・ 挟まり防止。
- ・ 転落防止。
- ・ Pt の体動で、頭が挟まりそうになることがあるため。
- ・ 安全性。
- ・ 隙間から転落する危険があるものは困る。
- ・ 柵と柵の間から降りようとする人もいるため。
- ・ 安全確保のため。
- ・ 隙間があるとそこより手足が落ちたり、頭や身体がベッドより落ちそうになることがある。
- ・ 隙間から転落した事例が以前あった。隙間があると Pt が無理矢理出ようとして挟まった。
- ・ 隙間からベッドから下りることを防ぐ。
- ・ ベッド柵を使用する目的は転落を避けるためであり、このことが最低条件である。
- ・ 身体の小さい方であると隙間からずり落ちてしまうため。
- ・ 事故防止のため。
- ・ 柵にはさまる事故を防ぐ。
- ・ 隙間に身体の一部が挟まらないように。
- ・ すき間がどうしてもできる。
- ・ すき間があると身体の一部がはさまることがあるため。
- ・ 隙間から降りようとして転倒した、しそうなった症例が多い。
- ・ 認知症の不穏患者、小児などの転落防止。
- ・ 隙間できると Pt おちる。
- ・ 安全性。
- ・ 患者の安全のために、隙間がなく設置できる。
- ・ 足や布団が落ちにくい。
- ・ 安全の為。
- ・ 患者様の安全を保つため。
- ・ 安全だから。
- ・ 隙間に身体の一部がはまる恐れが少ない。
- ・ 柵と柵の合間からずり落ちた Pt がいる。
- ・ 夜間せん妄、急患さんはどんな隙間も見逃されない。
- ・ 隙間に身体が挟まったりしないため。

#### 7. ベッド柵本体の隙間に身体の一部が挟まらない

- ・ 一部の圧迫により危険を防ぐ。
- ・ 事故防止。
- ・ 安全を考えて。
- ・ 事故防止
- ・ 転落につながる。
- ・ 柵の意義が無くなる。新しいリスク。
- ・ ベッドの柵の間から、頭が出たりする事故があるので。
- ・ 事故につながるため、隙間がない方が良い。
- ・ 隙間に首を入れたり、考えられないことが起こる。
- ・ 安全を考えると必要。
- ・ 隙間に挟まり、バランスを崩す可能性がある。
- ・ 安全管理上必要である。
- ・ 事故防止。
- ・ 死亡事故の例もあり。
- ・ 安全確保のため。
- ・ 事故あり。
- ・ Pt の安全のため。
- ・ 患者様の安全重視。
- ・ 事故にむすびついてしまう。
- ・ 事故を防ぐ。
- ・ 事故防止のため。
- ・ 危険防止のため。
- ・ 隙間に入り、事故が起きないため。
- ・ 身体損傷の危険性を防ぐため。
- ・ 体動の多い高齢者が使用しても安全なため。
- ・ ベッドからの転落や、窒息、骨折などの外傷予防のために必要。
- ・ 挟まれる事故防止。
- ・ 隙間があると危険。
- ・ 挟まらないため。
- ・ ベッド柵に挟まり、事故につながるため。
- ・ 危険防止のため。
- ・ 安全なので。
- ・ 事故防止。
- ・ 間から体の一部が出て、事故にならない。
- ・ 患者の安全のため。
- ・ 柵の隙間が広すぎて、四肢が挟まる事があるため。
- ・ ベッド柵の隙間にはさまりそうになった事があった。
- ・ 使いやすさ。
- ・ 挟まる事故のないように。
- ・ 柵と柵の間も補助ゾーンにより事故防止可能。
- ・ 危険回避のため。
- ・ 不穩患者だと4点柵の間に首を挟んでいたことがあったから。
- ・ 転倒転落防止のため。
- ・ 事故を防ぐため。
- ・ Bed 柵の間に頭をつっこんでしまい危険な場合がある。
- ・ 危険回避の為。
- ・ 認知症の Pt に必要。
- ・ 事故につながるから。
- ・ 安全確保。
- ・ 隙間があると患者の上下肢や頸部等はさまる危険がある為。
- ・ 上下肢がすき間に入り、骨折など、身体損傷の事故防止ができる。
- ・ 下肢、上肢が挟まる様な事はないが、注意はしている。
- ・ 柵の間に足や手を出される事があるため。
- ・ 自分で動いてしまうことによる事故を防ぐため。
- ・ 事故防止のため（隙間などにより、ベッド柵に身体が挟まることは重大な事故を招きやすい）。
- ・ 危険予防。
- ・ 身体の一部が挟まるという事故を聞いた事があるため。
- ・ 安全面で身体が挟まらない。
- ・ 危険な状態にならない事。
- ・ 隙間に一部挟まる事例があり、毛布等で補強した。
- ・ 安全上大切。高齢者は予想外の事が起こる。
- ・ 窒息や受傷の原因となるため。
- ・ 危険なので。
- ・ 上下肢が挟まることでの骨折の危険がある。



- ・ 転落防止。母児同室の際、添い寝が出来ると良い。
- ・ 柵の隙間にはさまってしまう危険もあるので。
- ・ 挟まり防止。
- ・ Ptの体動で、頭が挟まりそうになることがあるため。
- ・ 安全性。
- ・ 安全性。
- ・ 安全面から考えて、必要である。
- ・ 危険防止のため。
- ・ 隙間に身体の一部が挟まる事故もあるため。
- ・ 柵の隙間から足を出したり危険行動をとる人もいるため。
- ・ 患者の安全のため。
- ・ 手、足、首などが柵の隙間に挟まらないもの。事故防止のため。
- ・ 不穏な患者さんに使用しても、OKなように!!
- ・ すき間があると身体の一部がはさまることがあるため。
- ・ 安全のため。
- ・ 危険防止に役立っているから。
- ・ 挟まると危険。
- ・ 危険防止。
- ・ 隙間に麻痺側などがはさまってしまつては危険である。
- ・ A8病棟では、見守りの排泄者が多い。しかし患者がとりはずせたり、すき間から出し Bed に障り転倒するケースが多いため。
- ・ 事故の予防で。
- ・ 安全のため。
- ・ 身体が挟まったままおろしたりする事で骨折等危険がある。
- ・ 事故防止になる。
- ・ ベッド柵に首が挟まりそうになったことがあるから。
- ・ ジョイントの取り外し・取付が徹底されてなかったりするから、以前のインシデント経験あり。
- ・ 患者さんにとって安全であること。
- ・ 患者様の安全第一。

#### 8. 患者が乗り越えられない高さが確保されている

- ・ 安全確保ができる。
- ・ 柵が低いと転倒のリスクも高く、柵を乗り越える危険を考えると難しいが、危険度の高い患者（小児や）の場合はサークル型のようなものの方が安全高い。
- ・ 小児自身が柵を下げられない、乗り越えられない高さにする事で転落を防止するため。
- ・ 不穏や認知症のある患者に使用すれば転倒予防に効果大。
- ・ 低すぎると危険。
- ・ 転倒防止のため。
- ・ 転落を防ぐためにも必要。
- ・ 転落防止（不穏患者さんの）
- ・ 転倒を防ぐことができる。
- ・ 安全を考えて。
- ・ 事故防止
- ・ 転落防止のため。
- ・ 柵を乗り越えようとする患者あり。
- ・ 身体の大きい人、動きの激しい人は柵を乗り越えてしまう。
- ・ マットレスによっては高さを変えたい。
- ・ 離床、ADL 拡大期、状況に応じ使い分けのできる柵があればよい。
- ・ 不穏な患者さんに使用しても、OKなように!!
- ・ サークルベッドならのりこえない。
- ・ 転落予防のため。
- ・ 実際に乗り越える、又は乗り越えようとする人がいるので。
- ・ 簡便に転倒転落防止ができる。
- ・ Ptの安全のため。
- ・ エアーマットを入れてしまうと、柵の高さが低くなってしまい、乗り越えられてしまう高さになってしまうから。
- ・ 乗り越えやすいと危険なため。
- ・ 患者様の安全第一。
- ・ ベッドからの転落を予防するため。
- ・ 安全のため。
- ・ 患者が自分で動かし、転落する危険を防ぐため。
- ・ 転落防止。
- ・ エアーマット、その他使用の際、柵の位置が低くなり乗り越える危険が高い為。
- ・ エアーマット、使用時、柵との高さの差が少なくなり、乗り越える危険あり。
- ・ 柵を乗り越えようとする人がいるため。
- ・ 柵を乗り越えようとする方がいて危険だった。

- ・ 安全確保のため。
- ・ ベッド柵を使用する目的は転落を避けるためであり、このことが最低条件である。
- ・ Pt が不穩でベッドから転落しないようにするため。
- ・ 転落防止。
- ・ のりこえられることは常にあり、安全な高さではない。
- ・ 実際はそういう柵は見たことがなく、乗り越えられる患者が多く、時に小児用サークルベッドを使用するがベッドが高く余計危ないため。
- ・ 認知症の方は乗り越えようとしていたりする事も多いので高さが必要だと感じた。
- ・ 転倒転落防止のため。
- ・ 乗り越えて転落するケースがあるため。
- ・ ある程度の高さも必要。
- ・ 認知症の Pt に必要。
- ・ 降りようとして、転落される事があるため。
- ・ 現在使用しているものにはないが良かったら良いと思う。
- ・ 事故防止のため（隙間などにより、ベッド柵に身体が挟まることは重大な事故を招きやすい）。
- ・ 安静送脱や、転落事故となるから。
- ・ 安全性を考えて。
- ・ 柵の上から転落するケースがある。

#### 9. 高さ調節ができる

- ・ 患者の状態に合わせて調節ができるもの。
- ・ ベッド柵を乗り越える事例があったから。
- ・ ベッドの高さや、長坐位、起立してしまう可能性など、全てに対応ができる（ギヤッチ up 時も調節可能）。
- ・ 人によっては高さが必要（状況によって）。
- ・ 安全確保ができる。
- ・ エアーマットなど厚いマット使用時転落につながる。
- ・ マットレスによっては高さが足りないものがあるので危険。
- ・ 乗り越えて転落するケースが多い。
- ・ 児の年齢に合わせて選択できる。
- ・ 患者の状態に対応するため。
- ・ 小児の発達段階に応じて高さが調節できるもの。
- ・ 処置をする場合や移動時に便利。
- ・ 事故防止。
- ・ 症状に合わせた高さにしたい。
- ・ 除圧予防マットレスを入れると差が少なく、転落の危険がある。
- ・ 低いと乗り越える患者がいる。
- ・ 事故を防ぐ。
- ・ 事故防止のため。
- ・ 患者の状況に応じ高さ調節ができると良い。
- ・ マット類の高さに応じて、柵の高さが調節できると良い。
- ・ 患者が乗り越えられない高さに出ると良い。そこまで必要のない人には低くても良いので調節できると良い。
- ・ 患者が乗り越えられない高さも時には必要。
- ・ 安全を考えて。
- ・ 処置が行いやすい。事故防止。
- ・ 処置のしやすさや、患者が柵を乗り越えないようにするため等、用途に合わせたいため。
- ・ 体格によっては、一定以上の高さが必要となる。
- ・ Pt の安全のため。
- ・ 安全が確保出来る。
- ・ オーバーテーブルがはさめるように。
- ・ 患者の ADL の状況、ケアの内容によって高さが調節できると便利である。
- ・ 高さ調節ができれば柵越えをしなくてもいいかもしれない。あったら便利。
- ・ 患者によって調整しやすい。
- ・ ギヤッチ坐位時など、Bed 柵が同じ高さだと転落の恐れもあるため。
- ・ 端坐位がとれるすき間を確保できなければ新たなアクシデントにつながったり、又、不便だから。
- ・ 安全性。
- ・ 柵を越える患者がいる為。
- ・ マットレスの高さ、あるいは不穩等の状態に応じることができる。
- ・ 柵の乗り越えがある時など高くできると良い。

#### 10. ベッド柵を付けたまま、ベッド柵上で端座位姿勢がとれる

- ・ ADL 拡大をすすめている患者様には、4点柵だと必要部分はずし Bed 昇降、坐位の際の手すりにもなる。
- ・ ベッド柵を支持として行なうことができ、有効である。
- ・ 柵をたおすだけで端座位がとれる。
- ・ 患者が立位となる時や、車椅子への移動時に有用である。

- ・ 現在は端座位となる場合、柵を外せなくてはならないため。
  - ・ 患者様のADLに対応できる。
  - ・ 安全面で良い。
  - ・ 自分で移動できる方は端座位ができるので、便利である。
  - ・ ベッド柵を移動させないで、できる方が便利である。
  - ・ 車いすなどへ移る時、柵が移動できるので、手摺りにもなり良い。
  - ・ Ptの安全。
  - ・ 柵が患者の動きを妨げないため。
  - ・ 患者の座位が安定する。
  - ・ 寝たきり防止のため。
  - ・ ベッドさくにつかまりながら端座位になれて、転落しない。
  - ・ 柵が高くて座位がとれないのは困る。
  - ・ そうでないとう仕事が増える。
  - ・ ベッド上端座位になる時、柵を持って柵が外れないので良い。
  - ・ 端座位でバランスを崩した時に支えとなる。
  - ・ 転落防止（不穏患者さんの）
  - ・ 離床介助などに便利。
  - ・ 患者の安楽のため。
  - ・ 立ち上がり、トランスファーがスムーズに行える。
  - ・ 自立を考えると有効であると思う。
  - ・ 柵をたよりにおきあがったり、体勢を整えることがあるため。
  - ・ 車いすへの移動や、立位へのステップに役立つため。
  - ・ ベッド柵の置き場所が困らない。
  - ・ 端座位になる時、柵をつかんで移動するので必要となる。
  - ・ 端座位がとれると患者にとって生活が変わる。
  - ・ 端座位からポータブル移動時の転倒が多い。
  - ・ 安全管理上必要である。
  - ・ 安全確保できる。
  - ・ 個別に合わせて柵設置部位が変えられ、ADLに支障をきたさない。
  - ・ 端座位時柵をはずすとより転落の危険高くなる。
  - ・ 術後の早期離床、リハビリを進めていく上で必要。
  - ・ 端座位になる際に柵必要。
  - ・ リハビリ時など、そのつど柵をはずさなくて座位になれる。
  - ・ 安全の為。
  - ・ ベッド柵を全部おろさないと端座位がとれないのでは危険回避につながらないから。
  - ・ 患者にとって、楽、便利だから。
  - ・ ICU シンドローム予防、ADL 拡大のため、座位訓練をする事が多いが、現行では支えるものがなく不安定。看護師の付きそいが必要になる。
  - ・ 4点柵の場合、食事時等には端座位となった時に柵が邪魔だというPtの声が時々あるため。
- 1.1. シーツ交換の際に邪魔にならない
- ・ 患者さんにとって安全であること。
  - ・ 患者様が寝たまま移動時も、邪魔にならない。
  - ・ シーツ交換がしにくいベッドがある。
  - ・ 手が入りにくいとシーツ交換が大変。
  - ・ シーツ交換が簡単。
  - ・ 左右の柵をたおせばシーツ交換時は問題がない。
  - ・ ベッドサイドの仕事がしやすい。
  - ・ シーツ交換で手間がかかるのも問題。
  - ・ 仕事が安易にできる。
  - ・ 頻回の交換なので、簡単に操作できる方が良い。
  - ・ シーツ交換時取り外さずにできれば嬉しい。
  - ・ 仕事のやりやすさ。
  - ・ 柵が邪魔になるため。
  - ・ 取り外しが簡単で、比較的しっかりしている。
  - ・ シーツ交換時、柵の設置が忘れられる事が多い。
  - ・ マットの厚さによっては、柵の方が高くやりにくいので。
  - ・ ベッド柵がじゃまになりやりにくいことがある。
  - ・ 柵によってはシーツ交換がしにくい。
  - ・ たおせてベッドの高さをかえてシーツ交換できるので、シーツ交換者の身体の負担にならない。
  - ・ シーツ交換の際、わざわざ柵を外さなくて良いから便利。
  - ・ 業務に時間がかかるので、便利で良い。
- 1.2. 清掃が簡便
- ・ 感染防止対策。
  - ・ 金属なので大体拭けば汚れをおとせるから。
  - ・ 汚染しやすい。

- ・ 感染防止。
- ・ 清潔である。
- ・ 汚れた時の清掃が簡単。
- ・ 清潔保持ため。
- ・ とりはずして清掃できる。
- ・ 汚れたとき拭きやすい。
- ・ 手が入りにくいと汚れが残る。
- ・ 清掃により清潔が保持できる。

### 13. その他

- ・ 壊れにくい。
- ・ 布団のずれ防止や、体位変更の激しい人の転落防止のためには必要。
- ・ 頭・足側に分かれて、折りたたみ式であると便利。
- ・ 患者が自分の判断で柵を簡単に操作できにくいと、危険が少ない。

## 資料 5-4 ベッド柵への不満・改善要求意見・一覧表

### □患者が自分で抜いて/降ろしてしまう

- ・ ベッド柵の上げ下げを Pt が覚えると、勝手にに行っている。
- ・ 患者が柵を下げれないように固定することが簡単にできる。
- ・ ベッド柵が固定できるようにしてほしい。
- ・ 必要時、折りたたみ柵の握る部分にロックがかかると良い。
- ・ ロックがかかるようにしてほしい
- ・ 折りたたみ式なので自由に立てたり倒したりできるが、ベットよりおちる危険度の高い方の時、ベッド柵から動かないようにするために、ひもとベットをしばっている。
- ・ なにかひもにかわるものはないか。
- ・ 認知症の患者でも簡単に柵を操作できる。
- ・ ロック付きの柵。
- ・ 倒してはいけない患者の場合、患者が勝手に触れて動かして倒してしまう。ひもでしばってもほどいてしまう。
- ・ 柵のロック機能があるとよい。
- ・ 柵はベッドのわくに差し込んだら、ロックできるような機能があると良い。
- ・ 柵の取り外しが容易なため、患者様が自分で取り外してしまうことがある。
- ・ 柵は上から持ち上げると、簡単に外れてしまうので、認知に障害のある人の場合、危険が予測できず、外した体勢のままベッド下へ転落の可能性がある。
- ・ 差し込み式で、更に固定が簡単な物にして欲しい（利用者が自分で柵を外さないため）。
- ・ 差し込み式なので、患者様の力ですぐ抜けてしまう。
- ・ ベッドに固定するのがしにくい。
- ・ 患者も簡単にベッド柵を外してしまうこと。
- ・ 認知症の患者様は、自分で柵を取り外し、転落ケースあり。
- ・ 自分で柵をとってしまい（抜いてしまい）転落する場合は、ロープでベッドに固定している。
- ・ 患者が自分で外してしまう。
- ・ 抜けやすい。紐でくくったりしている。
- ・ ベッドに柵を固定する際、紐を用いて、ぐるぐる巻いて固定している。簡便に固定できるベルトのようなものがると良い。
- ・ Pt が簡単に外せる
- ・ 差し込み用の柵はストッパーがないので、患者さんが自分で持ち上げて抜いてしまうため困る。
- ・ ベッド柵が固定したい場合（簡単に抜けないように）できない。
- ・ 患者様が自分で抜いてしまう
- ・ 差し込みタイプは置き場所に困るし、抜けやすい
- ・ 転倒リスクのある患者が一人柵を取り外せること
- ・ 患者自身が簡単に取り外せないもの。
- ・ 差し込み式のもの、患者が自分で外して、転倒してしまう。
- ・ 固定しやすい事。勝手に患者様が取り外しできない事が良い。
- ・ 差し込み式なので Pt が引き抜く事ができ、認知症 Pt は、柵を抜いて歩行しようとされるので困る。
- ・ 差し込み式なので、Pt 様が自分で外したりしている場合もある。
- ・ 乗り越えたり、Pt が容易に外してしまう。
- ・ 患者が自分で抜いて降りてしまった。
- ・ 認知症の患者が、外してしまおうので、紐で固定することが多い。
- ・ 患者によりベッド柵とベッドを選択して使用しているので、ある程度対象により仕方なしと思うが、差し込み式は、外して居る時の柵が固定して置かれると良いと思う。
- ・ 柵の隙間から足や頭が出る。
- ・ 患者が自分ではずしてしまう。

- ・ 柵が抜けやすい。
- ・ 力のある患者だとベッド柵を外すことが可能である。
- ・ 患者が自分で外して転落・転倒に至ってしまう。
- ・ 自分で外せないようロック機能をたける。
- ・ Ptが自分でとってしまい、ベッドから落ちる。
- ・ ベッド柵、ネジ式で抜けないように固定できるものもあるが、差し込み式でスポット抜けるものもある。
- ・ Ptがベッド柵を持ち上げてとってしまう。
- ・ うまく固定できる方法はないか（病棟では固定バンドを作成して使用しています）。
- ・ ベッド柵がはずれやすい（電動ベッドの柵は取れにくい）。
- ・ 患者が勝手にはずすことがあったり、動作が大変である。
- ・ 患者自身が外すこと。
- ・ 認知症の方などは、すぐに柵を抜いてしまう（弾包で固定してもそれをとってしまう）。
- ・ 現状のものだと、差し込み式の場合、上から引っ張る力を加えると抜けたりする危険性があるため、必要部分ではロックができる様な柵だと使用しやすい。今は柵をひもでベットとくくるなど対処している。
- ・ ロックがかかるとよい。
- ・ とりはずしをPtができないようなロックがほしい。
- ・ 取り付け・取り外しは容易なものを。→取り外してしまうPtに対しては、柵を固定するような器具を開発してほしい。
- ・ 患者が自分ではずしてしまったり、柵の間より BEDSIDEへ降りてしまう。
- ・ 取りはずしが簡単にできるのは良いが、認知症の患者など自分でも取りはずしができてしまいのが困る。
- ・ 柵を患者が外してしまい、動こうとされる人がいるので危険
- ・ 固定してしまおうと柵を乗り越える人には危険
- ・ 自分で引き抜いて、ベッド下に降りてしまうことあり。
- ・ 患者様が引き抜いてしまわれること。
- ・ 患者が自分ではずしてしまったり、柵の間より BEDSIDEへ降りてしまう。
- ・ 三角巾で柵を固定し、患者に外されないようにする etc.の一手間を加えないといけないことがある点が不便。
- ・ 患者が勝手に取り外しをしないような構造にして欲しい。
- ・ Ptに簡単に取り外される。
- ・ 4点柵にしても患者が自分で外せる。
- ・ 軽くて、容易に外せない工夫がほしい。
- ・ 認知症の患者が自分で外してしまうので、ロック機能が付いていると良い。
- ・ 差し込みタイプは置き場所に困るし、抜けやすい

#### □高さが低い

- ・ ベッド柵を乗り越えてしまうため、ベッド柵の高さが、調節できれば良いと思う。
- ・ 高さを変えられないため、乗り越えて転落する患者様がいて危険。
- ・ 高さ不十分
- ・ 柵の高さが調整できないため、air マットなどを使用している場合、柵としての機能を果たさない場合がある。
- ・ air マットを使用すると、柵が低くなる。
- ・ マットの高さによって、現在使用中の柵を3段階に差し替えたりしないと、患者さんの身体の安全が保てないことあり。
- ・ 体圧分散マットを使用するとマット面が高くなり、柵の効果が半減して危ない。
- ・ 高さが低いと危険な時もあり、高さが高いとオーバーテーブルが引き寄せられない（使いにくくなる）。
- ・ 高さがあまりないので、ベッド柵を立てたまま、患者が乗り越えてしまう。
- ・ エアーマット使用時のベッド柵があると良い。
- ・ 柵の高さが不適當で柵がしてあっても、またいで転倒する患者様がみえる。
- ・ エアーマット使用時は柵が低く転落の危険がある。
- ・ 高さが低いので、エアーマットを使用すると、ギャッジをかけた時危険。
- ・ エアーマットを設置した時に、マットの高さが高くなり、ベッド柵が低くなってしまうため、そのような時に使えるベッド柵があるといい。
- ・ 柵を乗り越えてしまうケース。
- ・ ベッド柵が低く、乗り越えてしまう患者様がいます。
- ・ 高さ、種類を選べるようにしてほしい。
- ・ 高さ、種類を選べるようにしてほしい。
- ・ 低い、一身体の大きい（肥った）人は乗り越えてしまう。
- ・ エアマットを入れると、柵の高さが低くなってしまうので、転落の危険がある。
- ・ マットを普通マットから、エアーマットに交換した時、ベッド柵が低くて転落しそうになるため、もう少し高い柵があればいいと思う。
- ・ 高さ調節出来ればよい。
- ・ 高さを調整できるものがほしい。
- ・ 柵を乗り越えて転落する。
- ・ 高さが低い→強度の問題があり、難しいといわれましたが…。
- ・ 乗り越えたり、Ptが容易に外してしまう。
- ・ マットの厚みやギャッチアップにおいては柵の高さが低くなるため、柵の高さの高いものがほしい。

- ・ 柵が低い。
- ・ ベッドに付属している柵の高さ調節ができず、褥瘡予防マットを使用すると、マットの厚みで柵が低くなってしまう。
- ・ 男性患者など大柄な患者は、ベッド柵を乗り越えてしまう。
- ・ ベッド柵（高さが調整できるものが良い）
- ・ 一定の高さ（さし込み式）しかなく、患者様に応じて調整ができない。
- ・ エアマットを装着した時、手すりの高さが調整されない（別の手すりが必要）。
- ・ エアマットや褥創対策のマットを使用すると、臥床する位置が高くなり、Bed 柵の高さ調整ができないため、危険を感じる。
- ・ 柵の高さ調節ができればよい。
- ・ 高さが調節できるとよい。
- ・ 不穏な患者が容易に乗り越えられてしまうこと。
- ・ 乗り越えて転落すると、ベッド柵の分の高さが余計に危ない。
- ・ 柵の高さが調節できれば、ケア時に低くして、安静時に高くできる。
- ・ 簡単に操作できるが、エアマット挿入したら柵の高さが低くなり、転落する恐れあり。
- ・ エアマット用のサクを考えて欲しい（サクが浅くなり、患者が転落の危険性高い）。
- ・ エアマットをしようすると、厚みがあって柵をしても柵の意味がなくなってしまう。
- ・ エアマットを入れるとPtにとって柵が低くなってしまいうため、高目の柵があるとよい。
- ・ エアマットを入れると高さが足りない。
- ・ エアマットを使用すると柵の高さが低くなる。
- ・ air マット使用等により、ベッド柵の高さが低くなり、マットレスをはずす必要が生じる。
- ・ ベッド柵を乗り越えて転落しそうになる。
- ・ エアマットをひくとベッド柵が患者と同じ高さくらいになる。低いため。
- ・ ある程度の高さがある方がよい。患者が乗り越えない位。
- ・ 高さが低くのみこえられる。
- ・ 身体が大きい方、小児の入院の時、ベッド柵の高さがもう少し高ければ…と思う。
- ・ ベッド柵を乗り越える可能性があるPtの場合、柵の高さが調整できない。
- ・ 柵が低い。
- ・ 柵が低いと思うことがある（ベッドアップをしてすわる人には）。
- ・ 高さが足りず、エアマットを使うと落ちそうである。
- ・ マットが厚いと柵の高さ（段差）がなくなり、転落の危険が増す。
- ・ 高さ調節ができた方がよい
- ・ ベッド柵が低いので患者が乗り越えてしまう。

#### □ベッド柵とベッドのヘッドボード/フットボードの間に隙間がある

- ・ 柵の隙間から頭だけ落ちそうになったりしたことがある。
- ・ 隙間があり、患者が転落しそうになる。
- ・ 柵と柵の間や柵の隙間に、頭 etc.体の一部が挟まる。
- ・ ベッド柵とベッド柵の間から、転倒・転落するケースがある。
- ・ ベッド柵の間から足や手が出しまったり、ベッド柵と頭もしくは足側のベッドとの間から手・足が出た事もあった。
- ・ 柵と柵の間にすきまのないものにしてほしい。
- ・ サクの間があきすぎて患者が足を間にいれたらしていたり、頭がずり抜けてしまうことがあった。
- ・ 患者が自分ではずしてしまったり、柵の間より BEDSIDE へ降りてしまう。
- ・ ベッド柵をしても、上下の隙間から降りられることあり。隙間がないような柵にしてほしい。
- ・ ベッド柵の長さが不十分。
- ・ 折りたたみ式で、たおれるスペースがあるため、そこから患者がベッドの乗り降りするため危険。
- ・ 当病棟のベッド柵は頭元分がなく（隙間がある）肩の部分から足元までのため、不穏の患者様は頭元の間から転落する可能性がある。
- ・ 柵と柵の間に患者の身体が挟まってしまう。
- ・ 柵と柵の間に患者の身体が挟まってしまう。
- ・ 頭側、足側に隙間があること。その間から患者が降りる。
- ・ ヘッドホンとベッド柵の間から患者が落ちそうになった。
- ・ 折りたたみ式の柵の場合、柵の間が広く危険。
- ・ 柵の隙間から足や頭が出る。
- ・ ベッド柵を二本使用した場合（同じ側に）隙間ができてしまう。隙間がもう少し少なくならないだろうか。
- ・ 折りたたみの柵は頭側・足側それぞれに隙間があり、転落の危険性がある。
- ・ すき間に足をはさんでしまう。
- ・ 折りたたみ式は両端にすき間がつまる。
- ・ たおすことのできる分、頭側に（すき間が）柵のない部分が出てしまう。そこから患者様がベッドの下におりてしまうことがある。
- ・ 認知症の患者が柵の足元のすき間から下へおりたことがある。柵をのりこえたこともある。
- ・ 頭側や足元のすき間を小さくしてほしい。
- ・ 柵のすき間からすべりおちたことがある。
- ・ ベッド柵の間が広く患者さんの手足が出てしまう。もう少し間隔をせまくしてほしい。
- ・ 危険行動のある患者様に使用する場合、乗り越えられてしまったり、隙間から出られる事あり。

- ・ ワンタッチのサイドレールは、ベッドの両側に隙間が生じるため、その部分より転落することがある。
- ・ 4点柵で、1つ1つの柵に隙間が大きくあって、患者が落ちそう。
- ・ バーの隙間がもっと狭い方がよい。
- ・ 柵の隙間から頭だけ落ちそうになったりしたことがある
- ・ 隙間があり、患者が転落しそうになる。
- ・ 柵と柵の間や柵の隙間に、頭 etc.体の一部が挟まる。
- ・ ベッド柵とベッド柵の間から、転倒・転落するケースがある。
- ・ ベッド柵の間から足や手が出てしまったり、ベッド柵と頭もしくは足側のベッドとの間から手・足が出た事もあった。
- ・ 柵と柵の間にすきまのないものにしてほしい。
- ・ サクの間があきすぎて患者が足を間にいれたらしていたり、頭がずり抜けてしまうことがあった。
- ・ 患者が自分ではずしてしまったり、柵の間より BEDSIDE へ降りてしまう。
- ・ ベッド柵をしても、上下の隙間から降りられることあり。隙間がないような柵にしてほしい。

#### □ベッド柵の格子の隙間が広い

- ・ 隙間に足や頭など、挟んでしまうことがある。
- ・ 柵の隙間に足が入り込みなかなか抜け出せなかった。
- ・ ベッド柵の中から足を出されたりする。
- ・ 柵の隙間から頭が出てしまうリスクが発生した。
- ・ 柵と柵の間や柵の隙間に、頭 etc.体の一部が挟まる。
- ・ ベッド柵の隙間に患者様の身体が挟まらない様に、隙間を小さくしてほしい。
- ・ ベッド柵が原因でおこる事故もある。
- ・ 柵の隙間に身体の一部が挟まり、傷ができた。隙間をもっと狭くしてほしい。
- ・ 柵の隙間を狭くしてほしい。
- ・ ベッド柵とカバーがセットになっているものがほしい。
- ・ ベッド柵の間から足や手が出てしまったり、ベッド柵と頭もしくは足側のベッドとの間から手・足が出た事もあった。
- ・ 細い患者さんはベッド柵から足や手が出ることもある。
- ・ サクの間がもう少しつまっている物やそうでないもの、バラエティーに富んでいる
- ・ サクの間があきすぎて患者が足を間にいれたらしていたり、頭がずり抜けてしまうことがあった。
- ・ 添い寝授乳に対応した柵にすきまのないタイプがあるとよい。
- ・ ベッド up の時に柵とベッドの間に手や足がはさまらないか心配。

#### □着脱がしにくい（差し込み式）

- ・ 患者様の状態に応じて柵を付け変えているが、面倒である。
- ・ 柵の取り付けがしにくい。
- ・ とりつけ、はずしが面倒。
- ・ ベッド柵がはずしにくい。
- ・ pt様の移動の際（下垂坐位や排泄行動など）、その度に柵の取り外しが必要となる。
- ・ 抜けにくいことがある。
- ・ 取り付け・取り外しがかたく、力を入れてもなかなか外れにくい。
- ・ 柵のとりつけがはりにくい場合がある。
- ・ ベッドにとりつけにくい
- ・ とりつけが困難なものがある。
- ・ 柵が重く差し込みづらい。
- ・ 取り付け時向きが違っていると、はめ込みがしにくい時がある。どんな向きにも対応できるものが希望。
- ・ 差し込みがしにくい。
- ・ ベッド柵を差し込む穴に容易に入りやすいことあり。
- ・ しっかり止めるのに力がいる。
- ・ ベッド柵の差し込みは、処置の際に取り外しての処置は大変。

#### □規格が合わないベッドがある

- ・ 購入した時期が違っていると、同じ機種のカバーでも型や高さが違い不便である。
- ・ 各メーカーで柵のサイズが違う。
- ・ メーカー、ベッドの種類によって柵の形状が違う。
- ・ ベッドが数種類あり、それに対して、柵もいろいろなので、4本使用する際、高さが一定でなかったりしている。
- ・ ベッドに合わないベッド柵（古いもの）が多い。
- ・ Bed柵が専用の Bed柵でしか使用できない。さしこみ穴の処置を他の Bed柵と同じにしてほしい。
- ・ メーカーによって、差し込み口が違う。
- ・ どんなサクでも Bedにはめられると良い。
- ・ ベッド柵とベッドのタイプがいくつかあるため、合わない柵を入れて抜けないものがいくつかある。統一してほしい。ベッドが新しく購入されると以前の柵がつかえないなどの時がある。どの Bedでも対応できるものを作ってほしい。
- ・ メーカーによって柵が合うもの合わないものがある。
- ・ 柵によってベッドになかなか取付かない時があり、合うものを探すのに時間がかかる。
- ・ 各メーカーのものが、高さ・巾・形が合致せず使いづらい。Pt様が生活しづらい。

#### □故障しやすい

- ・ ベッドへの挿入部分(差し込み)が壊れやすい。
- ・ 差し込みが変形しやすい。
- ・ 柵の下のプラスチック部分が壊れてベッドの穴に挟まってしまう。
- ・ 力に弱く、下半身麻痺の方が柵を支えに起きあがる時に、ベッドに差し込んでいる部分が曲がってしまった。
- ・ 差し込みの部分のキャップがすぐ取れてしまう。そのため安定が悪くなる。
- ・ 抜けにくい様ゴムのカバーがあるが、長く使うとボロボロになる。
- ・ 柵のキャップが壊れやすい。
- ・ さしこみ式のもの古くなると先端が折れ、ベットから抜けなくなり、次に入れようとするとう安定がわるい。
- ・ ベッド柵の差し込み部分がかけてしまい、ガタガタゆれてしまう。

#### □ぐらつく

- ・ ぐらつきをなくしてほしい。
- ・ ベッド柵のはまりが悪いし、カタカタ音がする。
- ・ グラつきがあり、不安定なものがある。
- ・ 車いすからの移乗時、患者側等の配慮で柵につかまっても安定して固定性のあるものがほしい。
- ・ ガタガタ動くことがある。
- ・ 安定感のある柵にしてほしい。
- ・ 体重をかけ、起きあがることが多いので、丈夫なものでないとすぐグラグラしてしまう。
- ・ ガタつきやすい。
- ・ 荷重によるもので生じた結果であろうが、ぐらつくこと。
- ・ 柵がしっかり固定されない。

#### □端座位時に折りたたんだ柵が邪魔(折りたたみ柵)

- ・ 下がるとベッド上より、上方位となってしまう、端座位時は苦痛である。
- ・ 折りたたみ式柵は端座位になった時にマットレスより柵の方が高くなり足に負担がかかる。
- ・ 折りたたみなのでベッド端座位時に冷たく痛い。
- ・ 折りたたみ式のはたたんだ時にマットより上にあたり、ベッドに腰掛けると硬く足にあたり、不評であること。折りたたみ式は端座位の時に邪魔になる。
- ・ 折りたたみは、ベッドのマットとの差があり坐りにくい。
- ・ 現在使用中のものはベッド柵が折りたたみ式であるが、折りたたんだ時、マットレスより2~3cm高いため、起座位をとると膝下にあたり痛みがある人がいる。
- ・ 折りたたんだ時、柵が浮き上がるため、離床を開始の時は不便である。
- ・ 柵が浮き上がらない様に。

#### □はずした際収納に困る(差し込み式)

- ・ 差し込みタイプは置き場所に困るし、抜けやすい
- ・ 柵を取り外し、置き場所により倒れて柵が床について不潔になる。
- ・ 差し込み式のベッド柵使用している。4点柵をしていると、取り外した時の柵の置き場所がなく、又床にずれ落ちた時に音がして不便である。
- ・ ベッドについているとベッド柵の収納・保管に困らない。
- ・ シーツ交換他処置時にすべての柵をはずす必要があり、置き場にも困る時がある。
- ・ はずした時に安全に置いておくところがあると良い。床にたてかけて滑って倒れたりする。
- ・ 4点柵設置することがあるが、収納が2本の柵しかできず置き場所に困る。
- ・ はずした時に、収納するのに困る。
- ・ 差し込み式は取り外すと置き場に困る。

#### □硬い

- ・ 患者様が顔や膝をぶつけても、ケガや痛みを生じない素材。
- ・ 柵が、硬いため、柵に手や頭をぶつけ、内出血を引き起こしてしまう。
- ・ ベッド柵のカバー柄とか工夫してほしい。
- ・ 柵が硬い。
- ・ 不穏患者が暴れてもケガをしないような柔らかいものが付けられる柵がほしい。
- ・ 小児用ベッド柵で頭をぶつける子がいて、素材を考慮、クッションとなる物を取り付けてほしい。
- ・ 柵に身体があたった時、危険。安定且つ、衝撃吸収するものだと良い気がする。
- ・ ベッド柵に手足を打ちつけられる事あり。打撲等の危険がある。
- ・ 柵に足や手をぶつけるPtもいる。

#### □高さが高い

- ・ ベッド柵の高さが看護ケアするのに使いにくい。
- ・ ベッド柵が高い(小さいPtには、オーバーテーブルが食事時合わない)。
- ・ 4点柵で、少し高めベッド柵は、オムツ交換等しづらく、外さなければならぬ。外さず腰に負担かからず、ケアができると良い。
- ・ 柵が高くてテレビを見るのに邪魔になり、はずしてしまう人が何人かいる。
- ・ 低い柵があるとよい。
- ・ 倒せないものはテレビを見るのに邪魔。

#### □降りたたんだ際に指やドレーンが挟まる危険がある

- ・ Pt様によっては柵に指を挟めたりもあつた。
- ・ 倒すと間に指が入ることがあり、危ない。



- ・ 指が挟まらないで動かせるようにしてほしい
- ・ 柵の間からドレーンバックを出すと、折りたたんだ時にドレーンを挟んでしまう。
- ・ ドレーンチューブが挟まる。

□重い（差し込み式）

- ・ 重い
- ・ 持ち運びが重い。

□片側にひとつのかたちのベッド柵は折りたたむと掴まるどころがなくなる

- ・ ベッド柵に備え付けの柵に関して、片側の柵が一度に全部降りてしまうのでつかまる所がなくなってしまう。
- ・ ベッド柵を付けたまま、患者様がベッド上端坐位になる事ができないため、つかまるものがなく不安定になる（看護者の支えが必要）。

□シーツ交換がしにくい（折りたたみ式）

- ・ シーツ交換がしにくい。
- ・ ベッドの種類によりシーツ交換の時下までまがらず不便。

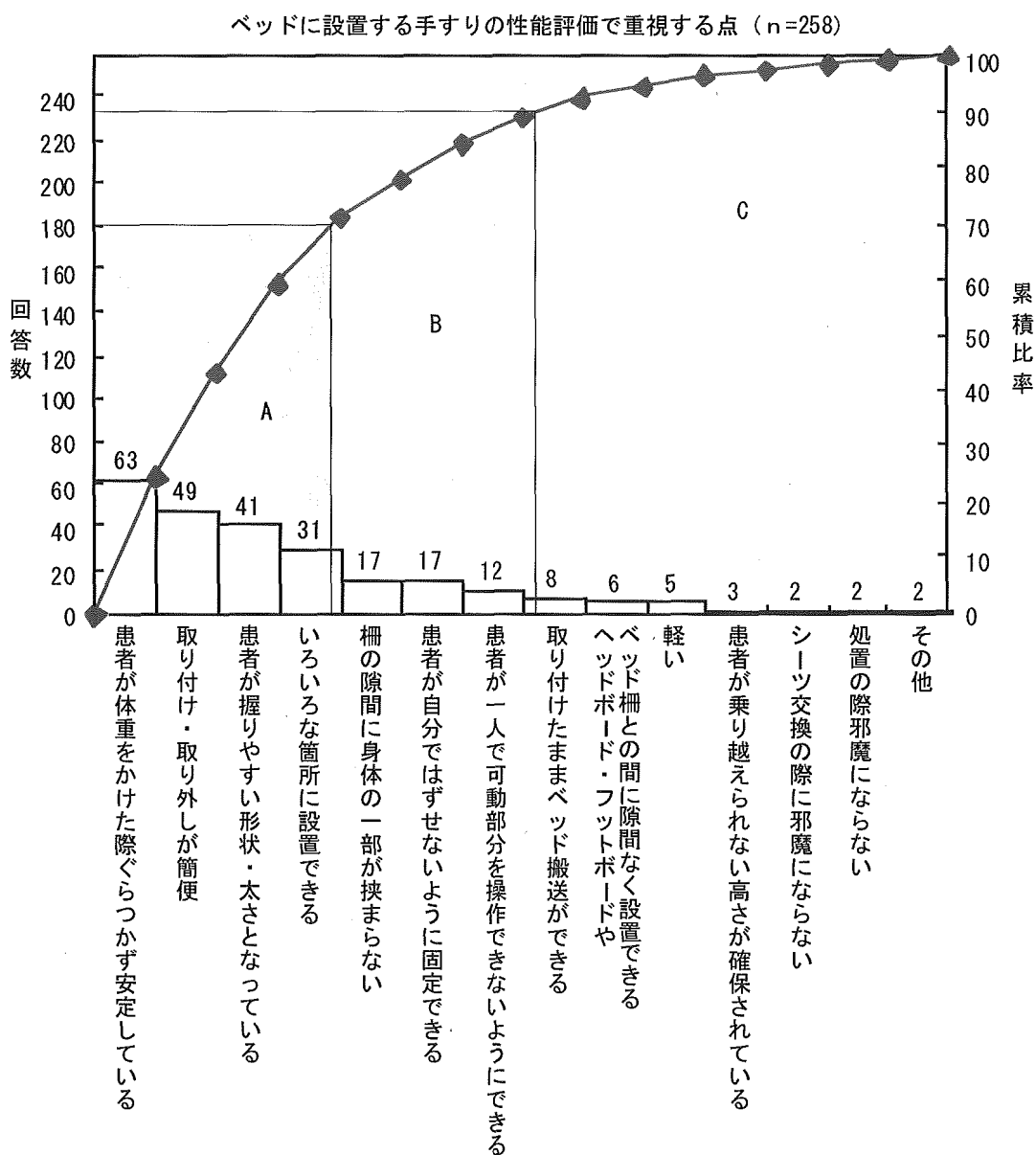
□その他

- ・ ベッド柵とベッドの間にゴミがたまる。
- ・ 当たって冷たい。不快感がある。
- ・ Folley をかけるのにちょうど良い高さが無い。
- ・ 落とした時の音が大きく患者さんが驚いてしまう。
- ・ 倒れた時音が響く。

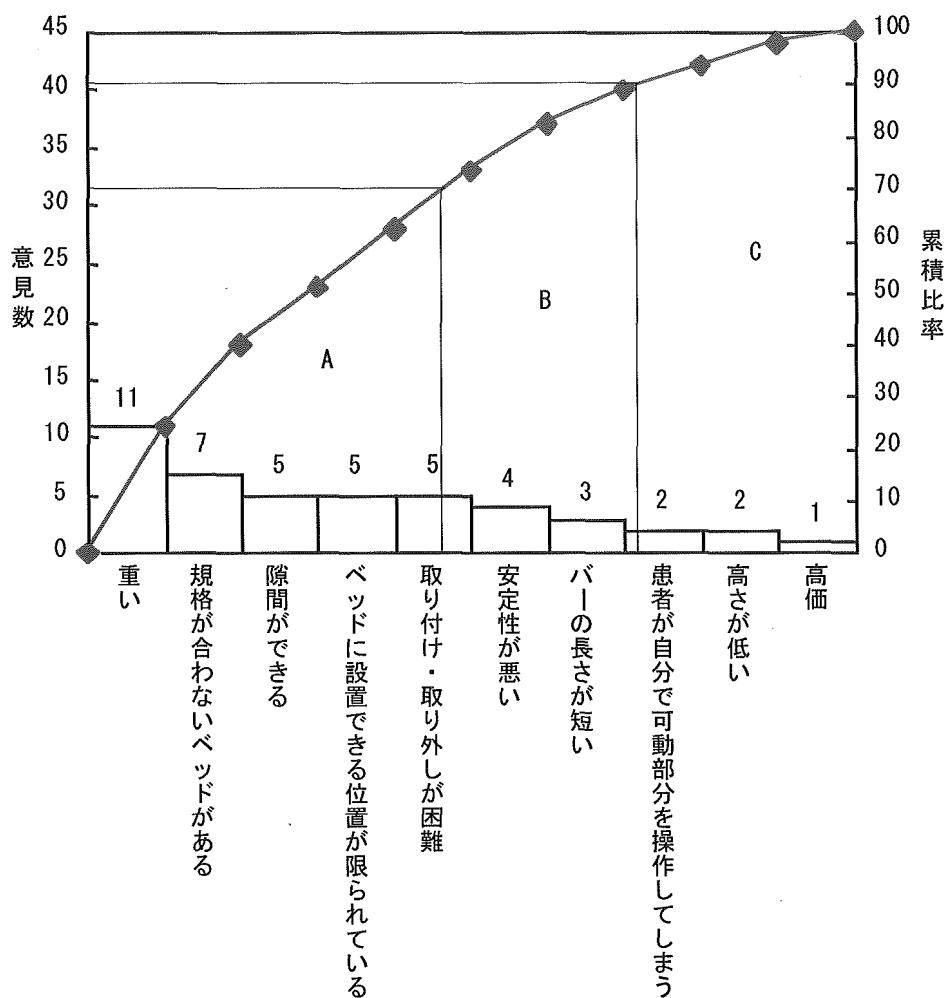
資料 6-1 介助バーなどベッドに設置する手すりについてのアンケート集計結果

介助バーなどベッドに設置する手すりの使用状況

使用状況	回答数	回答割合
現在使っている	62	21.1%
過去に使ったことがある	34	11.6%
使ったことがない	182	61.9%
不明	16	5.4%
計	294	100.0%



ベッドに設置する手すりに対する不満・改善要求意見 (n=45)



資料 6-2 介助バーなどベッドに設置する手すりの評価軸と求められる性能

評価軸	求められる性能
安全性への配慮	<input type="checkbox"/> 隙間なく設置できる <input type="checkbox"/> 患者が握りやすい形状・太さとなっている <input type="checkbox"/> ぐらつかないよう安定した設置ができる
設置・収納のしやすさ	<input type="checkbox"/> 着脱が容易にできる <input type="checkbox"/> 強度や機能を損ねることなく、軽量化がはかられている <input type="checkbox"/> あらゆるベッドに設置できる
患者の利便性への配慮	<input type="checkbox"/> いろいろな位置に設置できる

資料 6-3 介助バーなどベッドに設置する手すりの性能を評価するにあたって重視する点・  
選択理由・一覧表

1. 取り付け/取り外しが簡便

- ・ 看護師が扱いやすい。
- ・ 気軽に使用し役立てるため。
- ・ 使用しやすい。
- ・ 必要時に迅速に取り付けられること。
- ・ 患者の状況に応じて柵を選択したい。
- ・ 必要な時、すぐ取りつけできる方が良い。
- ・ ベッドに合わず入りにくいことがある。
- ・ 必要な患者にすぐに設置できる。
- ・ 安全かつ使用しやすい方が良い。
- ・ 安全かつ使用しやすい方が良い。
- ・ 現在のものは面倒であり、壊れやすい。
- ・ 固定すると外しにくく、労力がある。
- ・ Pt の状態に合わせられる。
- ・ 取り付け外しが簡単。
- ・ 設置がしやすい。
- ・ 取りつけが容易である。
- ・ さしこみ式となっており、取り外しがしやすい。
- ・ 見ただけで操作方法がわかる。
- ・ 使用したい時にすぐにとりつけ、外しができる。
- ・ 患者の状態により変換するため。
- ・ 数に限りがあり、使いまわしをしている。
- ・ かんたん。
- ・ 誰でもすぐに簡単に取り付けられるものが使いやすいから。
- ・ 無駄な時間を使わずに、安全がいい。
- ・ 必要な時に簡単に使用できる。
- ・ 今使っているものがとりつけずらいため。
- ・ 介助バーの数が限られており、必要な時にすぐ取り付けることが良い。
- ・ 取り外しが簡便。
- ・ 取付は楽が良い。
- ・ 使い方が簡単で、安定感もある。
- ・ 使いやすい。
- ・ 安静度変更時、すぐ付け外しがしたいため。
- ・ ADL の具合により、選択できる、設置できる。
- ・ 患者様の ADL 状況に合わせ、すぐ設置できること。設置場所も自由にできる。
- ・ 取付が大変だと使いたくなくなる。
- ・ 車椅子利用する Pt で麻痺のある自立した人に便利。
- ・ 取付が複雑では、使用する気にならない。
- ・ 現在の支援ポールは取付の際、他部門に依頼しなくてはならないため。
- ・ 便利さは大切。
- ・ 様々な患者に対応できるよう、つけ外しが楽な方がいい。
- ・ 患者が支持しても安全なものが望ましい。
- ・ ドライバーでしめたりして、固定するのがめんどうだ。
- ・ とりつけがしやすい。
- ・ 忙しい業務の中であまり設置が大変でも道具を使用しなくなる。
- ・ 業務の時間短縮。
- ・ 取り付け外しが容易で、かつ患者さんが操作する時は外れにくいように。
- ・ 設置しやすい。
- ・ ロックなどあるとよいけど、とりつけなど簡便なことが大切。
- ・ 利便性。

2. 軽い

- ・ 現状のもの重い。
- ・ 今あるのが重たくて設置が大変なため。
- ・ 取り付け、取り外しがしやすい。
- ・ 取り扱いの問題。
- ・ 重いとスタッフの負担になる。

3. 取り付けたままベッド搬送ができる

- ・ ベッド移動が多いため。
- ・ 取りつけたまま、搬送も洗浄にも出せる。
- ・ ベッド移送が多い。
- ・ 安全かつ使用しやすい方が良い。
- ・ ベッド移動は結構あるから、大切なことだと思う。